

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ジョイコン NEWS ♪

第40号 2020年2月1日

東京五輪・パラリンピックの開催直前となる7月1日からレジ袋の有料化が始まります。地球規模の課題である海洋プラスチックごみ（廃プラ）が益々深刻になっているからです。特に、細かく砕けた粒「マイクロプラスチック」が生態系に影響を及ぼすと心配されています。私たちの暮らしに便利なプラスチックですが、まずは「減らす」工夫をしたいものです。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」（第40号）をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】次回コンサートのご案内
 - ◆第44回コンサート
- 【2】今後の予定（先取り情報）
 - ◆第45回コンサート
 - ◆第46回コンサート
- 【3】誰かに話したくなる音楽ミニ知識♪『F. A. E. ソナタ』
- 【4】コンサートのアンケートから

【1】次回コンサートのご案内

■■第44回コンサート■■

- ◇2020年3月15日（日曜日）
14:00開演（13:30受付開始）
- ◇出演：カルテット・アマービレ（篠原悠那 Vn、北田千尋 Vn、中恵菜 Va、笹沼樹 Vc）
- ◇プログラム（予定）
 - ◆ブラームス：弦楽四重奏曲 第1番 ハ短調 作品51-1
 - ◆ウェーベルン：弦楽四重奏のための緩徐楽章
 - ◆ピアソラ：ブエノスアイレスの四季
- ◇料金：大人・高校生2,000円、中学生以下1,000円
- ◇会場：大倉山記念館ホール

第44回ジョイフルコンサートは『弦楽四重奏の魅力～若きカルテットが織りなすブラームスからピアソラ』と題して、お届けします。

篠原悠那さんからメッセージが届いています

この度は大倉山ジョイフルコンサートの出演大変嬉しく思います。ブラームスの劇的で力強い作品、隠れた名曲のウェーベルンの緩徐楽章、アマービレの為に山中惇史さんに編曲して頂いたピアソラ ブエノスアイレスの四季…と盛り沢山のプログラムです。皆様にカルテットの魅力をお届け出来ましたら幸いです。

●ウェーベルン/弦楽四重奏のための緩徐楽章

今回のジョイフルコンサートはカルテット・アマービレによる弦楽四重奏の演奏です。プログラムもヴァラエティに富み、経歴をご覧になっていただく通り大変ご活躍中の方達による演奏です。どうぞお楽しみなさってください。

☆ウェーベルン

ウェーベルンはオーストリアの作曲家、指揮者です。シェーンベルク、ベルクと並んで新ウィーン学派の中核とされています。作曲数はそれほど多くはなく、生前は余り顧みられることもなく不運な作曲家でした。戦後再評価され、現代曲作曲家に大きな影響を与えているとされています。

シェーンベルクに師事して作曲を学びます。それ以前は独学ですべて作曲していたようで、ある意味天才です。その後、指揮者として各地で活動し、ウィーンに戻ってシェーンベルクを補佐して私的演奏協会を設立しました。同門の盟友ベルクが急逝してしまい、彼の「ヴァイオリン協奏曲」を世界初演で指揮をする予定でしたが、ベルクのことを思い出してしまいまともに練習もできず、ヘルマン・シェルヘンに結局頼んだというエピソードが残っています。その後英国初演ではウェーベルン本人が指揮をすることができました。このCDが復刻されているそうです。いつか聴いてみたいです。

オーストリアがナチスに占領され、ウェーベルンは親ナチス派でしたが、彼の音楽は退廃的とされ作曲活動ができなくなってしまいます。その間出版社で働いていたそうです。戦後また作曲活動を始めするために娘を頼りザルツブルグに移転します。親ナチス派だったためか、アメリカ占領軍に目をつけられてしまい、外で煙草に火をつけたところを闇取引の合図だと勘違いされてなんと射殺されてしまいます。61歳のことです。なんて悲劇的な最期なのかとってしまいます。

前述のとおりウェーベルンは戦後の前衛音楽に大変な影響を与えたとされています。後期作品には12音技法が使われています。12音技法とはオクターブ内の12の音を均等に使い、調の束縛から離れようとする技法でシェーンベルクが「5つのピアノ曲」で体系化したといわれています。言葉の説明だけでは難しいですが、曲を聴くと現代曲の不思議なハーモニーが流れている感じがします。

☆弦楽四重奏のための緩徐楽章

ウェーベルンが22歳の時に描いた作品で、まだ12音技法に傾倒する前に描いた作品です。初めてこの曲を聴いたのはジョイフルコンサートの5周年記念演奏会の大倉山カルテットの演奏でした。ウェーベルンという作曲家の名前も知りませんでした。ただ何て良い曲なんだろうと思いましたし、アンケートもそのような声が多かった曲です。弦楽器の柔らかくて暖かい音と重厚なハーモニーが心に沁みってくる曲です。感傷に浸るのにはぴったりなのではないでしょうか。

今回ウェーベルンを調べてこんな残酷な運命だったことを知り、いろいろ考えさせられました。どうぞじっくりお聴きください。(A.N)

■ 予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）～「予約申し込み」はまだ受付けておりません

■■ 第45回コンサート ■■

◇ 2020年5月17日（日曜日）

◇ 出演：嘉目真木子（ソプラノ）、高田恵子（ピアノ）

◇ プログラム（予定）

◆ R. シュトラウス：「明日」Op. 27-4、「献呈」Op. 10-1、「万霊節」Op. 10-8

◆ アイルランド民謡：ダニーボーイ

◆ イングランド民謡：グリーンスリーヴス

◆ 寺島尚彦：さとうきび畑

他

★予約受付開始：2020年3月16日（月曜日）午前9時より

■■第46回コンサート■■

◇2020年7月19日（日曜日）

◇出演：黒岩航紀（ピアノ）

【3】誰かに話したくなる音楽ミニ知識♪『F. A. E. ソナタ』

19世紀後半、多くの作曲家がサラサーテとヨーゼフ・ヨアヒム（1831～1907）のヴァイオリンのテクニックから靈感を受けて、あるいは彼らが弾くことを前提としてヴァイオリン協奏曲を作曲していました。今回は、そのヴァイオリニストのヨアヒムのお話です。

ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲は初演されてから30年近く評判にもならず埋もれたままでした。ところが、1844年、13歳のヨアヒム少年がメンデルスゾーンの指揮で演奏したところ、人々の見方が変わり楽譜も出版されることとなります。楽譜が世の中に広まった後もヨアヒムは精力的にこの曲を弾き続けて、生涯に最も多くの回数を弾いた協奏曲になったそうです。

ヨアヒム少年がいなかったら、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲はもっと地味になっていたかもしれないと言われています。メンデルスゾーンは、ヴァイオリン協奏曲の作曲中に12歳のヨアヒムの演奏を聴き、その輝かしいE線の響きに魅了されて、自分のヴァイオリン協奏曲に高音（E及びE線）をたくさん足したと言っています。

シューマンもヨアヒムが弾くベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を聴き、自分もこれに続く曲を書こうと決意し、ヴァイオリン協奏曲を書きます。

内外のヴァイオリニストがよく演奏する曲にブラームスの『スケルツォ ハ短調 WoO. 2』があります。これは『F. A. E. ソナタ』の第3楽章なのですが、第3楽章だけがブラームスの作曲です。1853年にシューマンは、自分のヴァイオリン曲を弾いてくれたり、自宅をよく訪ねてくれるヨアヒムに何か曲をプレゼントしようと考えました。「親しい仲間と楽章を分担してヴァイオリン・ソナタを書き、それを友情の証しとしてヨアヒムに捧げよう。」シューマンが声をかけたのは、愛弟子ディートリッヒと、20歳のブラームスでした。シューマンは早くからブラームスの才能を買っていたのです。

第1楽章はディートリッヒ、第2・第4楽章はシューマン、第3楽章はブラームスという合作ソナタができあがりました。ヨアヒムのモットーの「Frei aber Einsam(自由に、しかし孤独に)」が調性や曲想に織り交ぜられていたために『F. A. E. ソナタ』と呼ばれています。（因みにシューマンは後に、第1楽章と第3楽章を作曲し、ソナタ第3番としました。）

これをきっかけにヨアヒムとブラームスは意気投合し、ヨアヒムがヴァイオリン、ブラームスがピアノで共演したり、ブラームスが作曲に専念するようになってからも、二人の付き合いは続きます。

1878年、ブラームスはヨアヒムのためにヴァイオリン協奏曲を作曲し、もちろん初演はヨアヒムによって演奏されました。曲中のカデンツァ（独奏協奏曲などで独奏楽器が伴奏を伴わずに自由に演奏する部分）は、この頃は演奏者が勝手に演奏しないように作曲者が書くようになっていたのですが、ブラームスはヨアヒムが親身になってカデンツァ作りに協力したので、例外的にカデンツァ部分をヨアヒムに任せていました。

1850年代半ばから始まったヨアヒム、ブラームスの芸術的連携は40年以上にわたって続いたといわれています。（のん）

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（1月19日公演）

『邦楽三重奏団 壽 初春公演～箏・三絃・尺八の三重奏で迫る江戸の室内楽』は如何でしたか？

アンケートの満足度では、「大変良かった」が51%、「良かった」が26%、「普通」が2%、「あまり良くなかった」が2%（残りは「無回答」19%）でした。

自由記入欄（ご感想など）には、

『邦楽は生の演奏は聴く機会もなく、大変めずらしかった。また「斬新さ」に驚きました。大変すばらしく感動しました』『邦楽はあまり聴く機会がないので、ま近で聴けて良かったです。楽器の説明もありわかりやすく、奏法もいろいろあるのだと思いました』『私が弾くハープの現代曲にも、たたく、こするという奏法を使う曲がありますが、細川さんの「断章Ⅰ」の音の作り方は新鮮でした。尺八の息づかいもおもしろく（興味深く）聴かせていただきました』『「春の海」が聴きたかった。（アンコールで聴けて良かった）お二人の声（謡）もとても良かった』『「この音とまれ」というアニメを見て、本物の演奏を生で聞いてみたいと思い初めてコンサートに来ました。生の演奏、とても素敵でした』など率直な感想が数多く寄せられました。

また、『初めて知ることが多く、大変興味深い会でした。企画してくださった方、ありがとうございます』『初めて来まして、とても良い所でした。スタッフの皆様もご親切で、ゆっくり演奏を楽しめました』『身体が冷えた時のティーは最高でした。お心遣い有難うございました』など、好意的コメントも頂きました。
アンケート回収数：47（回収率66%）

【編集後記】

冬を代表する星座といえばオリオン座です。この星座の左上に位置する赤い星はベテルギウスと呼ばれ、シリウスとプロキオンで「冬の大三角」を構成しています。このベテルギウスが昨年末から急に暗くなり、これまでの半分以下の明るさになっています。すでに寿命を迎えていて「いずれ超新星爆発を起こす」とされているためか、国立天文台にも問い合わせが相次いでいるそうです。研究者によれば、「爆発は明日かも知れないが、10万年後かも知れない」状態で、もし爆発すると昼間でも見えるほど明るくなるものの、「地球に甚大な影響はない」はずとされています。
とはいえ、やはり気になって晴れた夜空を見上げる今日この頃です。（お）

※このメールマガジンは、

大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■演奏会予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>
予約専用電話：080-8424-5108

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら
info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール info@ohkurayama-joycon.com

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>